

中国・四川大地震で懸念される、核施設の存在と放射能汚染

北海道のため、また日本のため、私の話が皆さんの研さんにプラスになるかどうかは別にして、こうやってHOKKAIDO塾できょう皆さんとお会いできることを大変うれしく思います。一時間前後お話をして、残り三十分ぐらいを私自身楽しみにしている質疑に充てますので、最初に申し上げることだけ、ぜひメモか記憶にとどめておいていただきたいと思えます。

アメリカの心理学者の研究によると、三十分以上話を聞く場合には、まず入ってきた人間の第一印象が大体その後の記憶の四割を占めるのだそうです。私の場合、北海道ですから既に皆さん方にはお会いしている方もいらっしゃいますでしょうし、またテレビ等を通じて既にお見知りいただいているかと存じますが、どちらかというとな機嫌そうな生意気なイメージの方が強いのではないのでしょうか。そして、しゃべっているときの身ぶりや手ぶりとか表情、あるいは、ここで間違えたとか、幾つかのジョークというような話をしている時の外形的な部分が、やはり記憶の半分近くを占めると言えます。従って内容の趣旨について記憶をしている人たちが占める割合は、一〇%ぐらいしかないのだそうです。三十分以上たつと大体、皆さん方もお疲れになりますし、飽きてくるかもしれません。今後、

皆さん方が人の前で三十分以上スピーチをする時には、日本でもほぼ同じ統計だと聞いておりますから、ぜひその辺を頭に入れてスピーチをされたらいいのではないかと思います。

去年、麻生太郎さんとたまたま同じ結婚式に行つて、主賓が麻生太郎さん、二番目が私で結婚式に出たことがございます。新郎のお父さんが副大臣だったという関係もあつて私も結構まじめなことを考えていました。麻生太郎さんが出てきて主賓のあいさつで何を言ふかと思つたら、いきなり「大体、結婚式のあいさつなどというのは半年もたつたらだれも覚えていないものだ。新郎新婦だつてすぐ忘れてしまうはずだから話をしてもしょうがないのだけれども」と言つて話していたのが、私にとつてある意味では非常に参考になりました。

皆さん方も新郎として、あるいはまた友人、知人として結婚式に行つたここ半年ぐらいのことを思い出して、友人たちのおもしろい話はいっぱい入つておりますから覚えていることがあるかもしれません。最初に出てきた主賓の堅苦しいあいさつをどのぐらい覚えているものでしょうか。多分ほとんど覚えていないのではないかと思ひます。「麻生さん、おもしろいことを言うな。これも使えるな」と思つて、今ご紹介をさせていただきました。きょうは、水を中心とした話になるわけでございます。ところで、きょうは大変大きな地震がありました。たまたま家を出発する直前にニュースを見ていたら、突然画面に「間

もなく東北地方に大きな地震が来ます」というのがドーンと出て、その数分後から震度六強、一時前にここに着く直前にも余震なのか何なのかよくわかりませんが六強の地震が続発をしている。日本の場合には、関東大震災で十万人、阪神・淡路で五千人が亡くなったという大地震があり、地震には国民が大変苦勞しています。日本全体が三つの大きな地球上のプレートの押し合いへし合いの真上に存在しておりますので、どこにいても地震が発生しない可能性はないという地域でございます。亡くなった方は現時点でお二人（その後死者十二人・行方不明十人と判明）ということ、本当にお気の毒だと思えます。また、けがをされた方、あるいはまた被災された方がたくさんいらっしゃいます。

ただ、マグニチュード七、あるいは震度六強というのは、一カ月ほど前に起きました中国の四川省を中心としたチベットを含めた地震よりも、ある意味では震度は大きいのではないかと私は思っています。向こうで震度七とか言っておりますけれども、どうも中国の震度と日本の震度の計算の仕方が若干違うようでありまして、向こうの七とかいうのは六弱というデータをどこかで見ましたので、今回の東北地震は、ひよっとしたら四川省の地震の震度よりも大きいかもしれません。そういう中で、四川省地震では、もう一カ月上たって、今もあの地域では行方不明、あるいはまた数万人なのか十数万人なのか分からない方が既に亡くなっている。あるいはまた、これは東北でもこれから心配になりますけ



れども洪水の問題、それから第一義的には水不足ということと、この二つが両極端の問題として今でも大きな問題になっているわけでございます。そういう意味では、日本というのは世界最大多発地域にありながら、やはり地震のノウハウ、あるいはまた日ごろからの対応というものは世界でトップクラスだと思えます。決して日本の死傷者が多いとか少ないということではなくて、尊い人命が失われたということは大変悲しむべきことでございますけれども、そういう地震が日本では多発するのだということを改めて思い知らされたわけでございます。

特に、三陸沿いは道路が一本道でございます。ちょうど北海道の日高が海岸線に一本しか道路がありません。既に十勝沖地震とか北海道南西沖地震とかを経験しているわけですが、万一、日高で大

地震が発生して、あの海岸線の道路が一方所でも寸断されると、その先はほとんど陸の孤島になってしまうことを常日ごろ私自身、大変危惧をしております。数年前に私が作った数少ない議員立法でございますけれども、東南海地震、東海沖地震については不断の対応をするための法が制定されておりますけれども、法がなかった東北・北海道沖地震のための立法措置というものを議員立法で制定しました。ただ、その大半はやはり自治体でございますして、なかなか自治体の方がハザードマップの作成、あるいは緊急の道路の整備とか、そういうものが進んでいない状況でございます。そういう意味で、北海道も数多くの地震の経験があり、今後ますますこういう可能性が増えるかどうか分かりませんが、ないとは言えないという状況だろうと思っております。

中国の地震に関しては、もちろんさっき言ったように、これから洪水の問題、あるいは病気の問題などいろいろあります。それからもう一つ心配なのは、あそこには実は核施設が一番多い地域でございますして、中国大陸の防衛線の第三段階の一番コアの部分になるわけでございます。そこに多くの核関連施設や核関連物質があるわけでございますけれども、報道によると「三十四個の核関連物質、三十二個を確保した」と、こう誇らしげに報道して、いかにも危機対応ができたみたいなのを言っておりますけれども、二個はまだ行方不明だということでございますして、この二個が一体どういふものであって、どういふ状態

になつて何が發生するかということがまだ分かつていないというのは非常に不気味であります。中国政府は分かっているのかもしれませんが、公表されていないのです。

後で氣象のところでお話ししますが、チベット・ヒマラヤの氣候は、実は日本まで関連しているわけであります。今の梅雨前線も、天気図なんかを見ると、ちょうど日本を横切つてずっと走っているのですが、画面は中国大陸で終わつてしまひますけれども、あれは実はチベット・ヒマラヤまで続いています。逆に言うと、太平洋の高気圧と、チベット・ヒマラヤの気圧が上がつて水蒸氣が發生し、それが雲になつて日本に来るといふそのぶつかり合いがまさに梅雨なわけでございます。これも後で別の観点からお話をいたしますけれども、札幌でも時々、中国大陸の黄砂が降つてくるわけで、中国の方が気圧が高いと黄砂が大陸からやつてくる。その中に万が一、放射性物質も入つていたら、これは日本にとつても大変ゆゆしき問題になりかねません。

私は今、一議員に過ぎませんが、仮に閣僚だと、うかつなことを言つて後で中国から抗議を受けたりする可能性があるかもしれませんけれども、現実にそういう氣象状況あるいは自然状況にあるということ。つまり、放射能の危険も問題ですけれども、日本の氣候といふのは、フィリピン沖、あるいはまたエルニーニョなどというのは南米の氣象が影響してきますし、一番関係するのはヒマラヤ・チベットの特に雲の動き、それと関連する気圧

の関係が実は日本の天候を相当部分支配しているということを、ぜひ頭の中に入れておかなければならないと思います。ですから私は日本気象協会に、ぜひヒマラヤのところからの天気図、気圧配置というものも出してもらいたいということをつい最近も要望したところでございます。

かねてから主張していた、サミットの北海道開催が実現

さて、本題に入りますけれども、北海道洞爺湖サミットがちょうど三週間後に迫りました。確かに私が、「何で北海道は手を挙げないのだ」ということを強く各方面に訴えたわけでございます。そのきっかけは、これまた今から十年前の沖繩サミットにさかのぼります。あの時、私は農林水産大臣だったのですけれども、その前からG7、今はG8になりましたけれども、持ち回りでぐるぐるやっております。最初は東京とかパリ、ロンドンという、いわゆる首都でやっていました。そのうちにだんだん首都でやるのもいかなものかということで、地方でやるようになってまいりました。去年はドイツのハイリゲンダムというバルト海に面した保養地でやったわけでありました。決してベルリンとかミュンヘンとか、ああいう大都市ではやっておりません。その前のイギリスサミットも、あの時は口

ンドンで地下鉄などの大テロがあった時ではありますが、あれもグレンイーグルスという北の方で開催したわけでありませう。

あの沖繩サミットの直前にカナダのカナナスクスというところで、カナダサミットを行ったことがあります。これは、もちろんカナダの大自然が非常にいいということもありますが、実は夏にはオオカミがうようよして、マスコミとかいろんな人たちがテントにこもっているとオオカミに食われてしまうので、車か建物の中に入らないと危ない。安全上、これが非常にいいのだという話を聞いて、北海道にはクマがいるわけでございますけれども、それはさておき、カナナスクスですらやれるのだしたら、私は、当時の選挙区だった根室でやったらどうだと考えました。カナナスクスよりもよっぽど進んでいるぞということと、当時の小淵首相、あるいはまた野中官房長官にかなり訴えたわけでありませう。しかし、やはり特別の歴史を持っている、そしてまた平和の象徴である沖繩でやりたいということ、しようがないなと思っていたのですけれども、いずれ北海道でサミットをやりたいとずっと胸にしまっておりました。

競争で負けるかもしれないけれども、北海道はイの一番に手を挙げるべきだと言い続けていました。横浜、新潟、京都、瀬戸内海とかいろんなところが手を挙げましたが、何で北海道は手を挙げないのかなと思って、いろいろと各方面に訴えました。ただし、安倍総

理には一度も直接話はしませんでした。私は政調会長でしたけれども、安倍さんに言うのと、安倍さんが中川に配慮をして決めたなどと後で言われると、またおもしろおかしく言われますから、安倍さん以外の周りには必死になって言ったわけでありませうけれども、最後は総理のご決断であったわけにあります。総理が、洞爺湖、北海道でサミットをやるうと決断し、そして間もなく福田総理のもとで、貧困、気候温暖化対策、あるいは福田総理がよく言われている教育、水、衛生といったアフリカ対策等々を主題にやっていくわけでございます。

これはきょうの本題から外れますし、話すと一時間も二時間もかかってしまうのでやめますけれども、ひよつとすると七月の初めというのは世界の金融、あるいは世界の経済に大きな影響が出るかもしれない時期であります。つまり、三月決算、六月決算、そのたびに金融を中心に世界が大変厳しい経済状況になってきているわけでありまして、私はその状況が改善されていると思っております。六月決算が七月の第一週、第二週ぐらいからそろそろ出始めます。その前にうわさが大分広がっていく時期でもありますので、万が一、今まで以上に金融だけではなく世界の経済がおかしくなると、サミットの議題が、そちらの方のウェイトが高くなってしまうかもしれないという心配があります。そうならないことを期待しているわけでありませうけれども、そんな時期でもあるわけでございます。

日本の一人当たり平均水保有量は、世界の半分!!

さて、きょう幾つか資料をお手元にお届けしました。何で水なのだということでありませんが、資料をご覧いただきたいと思えます。水というのは言うまでもなく、ないと大変なことになります。私は、農林水産大臣のときに食糧の危機というものを痛感いたしました。それで、三年前に経済産業大臣をやっている時から、実は石油の値段が上がり始めました。三十ドルから五十ドルを超して六十ドルになった。このトレンドは、ひよっとしたら百ドルまで行くかもしれない。でも、六、七十ドルの時に百ドルは、「それは行き過ぎだよね」と思っていたのでありますけれども、百ドルを突破して、ついに百四十ドルの水準までいった。これも投機によつて今は最も値動きの激しい要因になっているわけでありますので、先が全く読めません。ひよっとしたら経済が悪くなつて暴落するかもしれないし、経済がそこそこ成長しているのであれば、さらにこっちの方にお金の流れ込む。つまり、価格が上がつていくかもしれません。

さらには、皆さん方の携帯電話、あるいはハイブリッドカー等々になくてはならない「産業のビタミン」と言われているレアメタルというものが、これまた鉄や銅といった非鉄金属などと並んで、あるいはそれ以上の勢いで価格が上がってきているわけでございます。

世界は、そういった資源が枯渇してきている大変な時代に入ってきたなど感じざるを得ません。しかも、アメリカを中心にして欧米、あるいは日本といった先進国が世界の経済を主導しているのではなくて、いわゆる資源国家、例えば中東とかロシアであるとか、小さいけれども行動が若干異常なベネズエラのチャベスみたいな人、ある意味では供給側がこういった問題を支配をしようという懸念があります。途上国、あるいはまたアフリカのような最貧国であるけれども資源を持っている国々が、資源エネルギーの供給について決定力を持つようになってしまいました。

食料とバイオエタノール、あるいはまたエネルギー、そして水、これはみんな関連する話であります。特に、きょうの主題でもあります気候変動によって食料自体の生産余力もどんどん少なくなっておりますし、他方、「バイオエタノールの方が石油との関連で価格が上がって有利だよ



ね」とアメリカとかブラジルなんかは言い始めて、食料価格がどんどん高くなってきた。十年前、私が最初の農林水産大臣の時は、とにかく輸出国側が輸出したいと言うのを何とか我々は止めているというのがWTOなどの最大の仕事であったわけでございますけれども、今や、WTOの交渉そのものはかなり先行きが怪しくなってきたと私は思っております。輸出国はちゃんと輸出することが、今、WTOにおける最大の議論になってきました。つまり、現在は全く逆転した状態になってしまったわけであります。

私は格差という言葉は余り好きではないのですけれども、そういう状況の中である意味では、差がどんどん広がってきた。お金を持っている国、資源国、それからまた何だかんだ言っても世界の基軸通貨であるドルのアメリカ、あるいはロシアといったところが発言力も資金力もどんどん強くなってきたというわけであります。そして、さつき資源を持っているアフリカと言いましたけれども、アフリカの国はどんどん成長しております。日本は一、二%で大騒ぎしているわけでありませうけれども、世界全体は5%の成長をしているわけでありませう。そのけん引車は途上国であります。アフリカですらと言ったら悪いのですけれども、あの貧しいアフリカですら成長率は5%以上あるのです。では国民の暮らしが良くなっているかという点、決してそうではない。むしろ、差が広がったことよって貧しい人はますます貧しくなり、合法的か非合法的かは別にして豊かな人や権力を持っている

る人は、ますます強くなっているという状況です。これは、ほとんどの非民主的な国家においての共通の傾向だろうと思います。

そういう中で、エネルギーがないと困ります。資源がないとまた困ります。食糧がないと、これも大変困るわけでありませうけれども、水は一日たりとも欠かせないものであります。そして水というのは、実は地球上に遍在をしているわけでありませう。インドネシアは年間二千七、八百ミリ降る。日本も千八百ミリ降ります。中東に行くと百ミリ前後しか降らない。アフリカでも本当に雨が降らないところがある。

われわれがふだん飲んだり使ったりしている地球の水というのは、雨が降ってきて川や湖、あるいはまた地下水になる。あるいは何億年も前から地中にたまっている淡水、こういうものを利用してはいるわけでありませうけれども、この大半を占めている雨がこれだけばらついているわけですね。日本は千八百ミリですから結構多い方でありませうけれども、一人当たりの水保有量ということになりますと、世界の一人当たりの年間水保有量は約八千六百トンに対して日本は三千三百トンしかありません。つまり、世界の半分以下という大変少ない数字を、私は数年前に発見して大変びっくりしました。そこから私は関心を持って水の世界に入ってしまったわけでありませう。(表1)

(表 1)

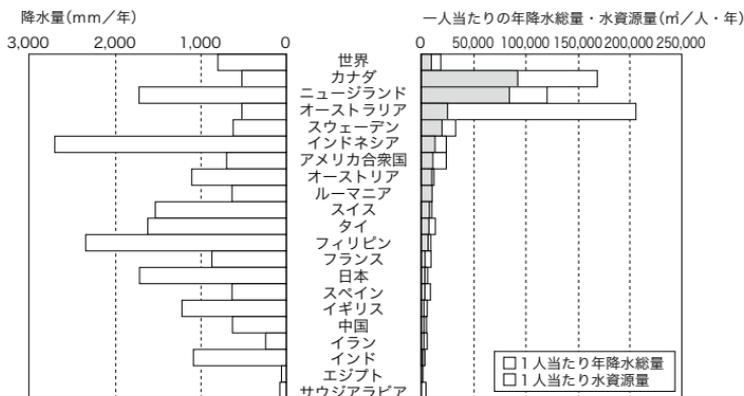
世界の水の危機に関する資料集

国連ミレニアム開発目標関係 (WHO/UNICEF 報告書 2005 より)

1. 安全な飲料水を利用できない人口は 11 億人 (世界人口の 18%)
2. 基本的な衛生施設(トイレ)を利用できない人口は 26 億人
(世界人口の 42%)
3. 世界中で 20 秒に一人 (毎年 180 万人) の 5 才以下の幼児が、
安全な水や基本的な衛生設備がないため死亡している。

実は少ない日本の水資源量 (平成 19 年度日本の水資源より)

1. 日本の年間降水量は年間 1,715mm、世界平均の年間 810mm の約 2 倍で、
一見降水量は豊かに見える。
2. 一人あたりの年間水資源量 (降水量から蒸発などを除いた量) は、世界平均の一人あたり年間 8,559 トンに対し、日本は 3,337 トンと半分以下。



(2008.06.05 版 今後さらに補強する予定)

安全な水を利用できない人は、世界に十一億人もいる

水があっても、例えば汚い水、あるいはまたその辺にたまっていて水たまりには、蚊が発生してマラリアになるなど感染症が発生するといった飲めない水。つまり、安全な水を利用できない人は世界に十一億人もいるのだとそうです。それから、水というのは飲む方、上水も大事ですけど、下水の排水の方もある意味ではもつと大事なわけですが、この安全な水を確保できない人が二十六億人もいるというのが世界の現状であり、人口が増えておりますからこれは余り改善されていないということです。

次に最近よく言われますが、われわれの食べる穀物、小麦は一キロ栽培するのに二トンの水が必要であります。約二千倍必要なわけです。米に至っては三千トンの水が必要になります。そして、牛肉一キロつくるのに穀物が十一キロ、大ざっぱな数字ですけども約十倍以上かかるわけです。一キロの牛肉をつくるためには約二十トンから二十二トンの水が必要だということになります。言うまでもなく食物も動物も水なしでは生きていけません。しかも大量の水を使うということです。日本は、一人頭の水はそんなに多くない。ちなみに、さつき日本は八千五百トンと言いましたが、北海道は一万トンです。したがって北海道は、広くて人口が少ないということもありますけれども、一人頭

の保有量はブロックでいうと一万吨という日本の平均の三倍あるわけですから、水に關しては全体としては今のところ心配はないということがあります。

こういつた小麦一キロ水何トン、牛肉一キロ水何トンということを、東大の沖先生という若くて優秀な先生がバーチャルウォーターと言っています。食料輸入を水換算した時にどのぐらい水を輸入しているか計算しましたところ、約六百四十億トンになりました。数字が時々変わるのですけれども、ここでは六百四十億トンということでありまして、日本の農業で約五百五十億トンの水を使っております。ただし、それは水田のようにぐるぐる回って川に戻っていくものもあるわけでありますから、実際に食物、動物そのものに投入される量は多分もつと少ないのだらうと思いますが、いづれにしても日本は世界一の食料純輸入国であるということは、実は世界一の水輸入国であるというふうにも言えるわけです。ですから、農産物はお金を出して買っているわけですけれども、実は、それを作るための土地のエネルギー、あるいは空中の窒素であるとか、そして、水を奪っていると言ふと言ひ過ぎですけれども、実は世界中から水がある意味では買っているというか、その水を奪っているのだとも言ひ換えることができます。このことを日本人は改めて考えるべきだと思います。(表2)

だから、アフリカやオーストラリアやアメリカで干ばつが起きているということは、実

は世界的にも問題がありますけれども、日本の食料の安定供給、つまり自給と備蓄と輸入という三本柱について、できるだけ自給を増やさなければいけないことは言うまでもありませんけれども、一〇〇%自給するのだと民主党は言っていますが、ただし、一〇〇%自化するというのもセツトですから、これは何を考えているのか私には全く理解できないわけがあります。一ポイントでも自給率を上げなければいけません、いずれにしても膨大な水を世界から輸入しているのだということも忘れてはならないと思っています。

そういう中で、地球温暖化というのは、CO₂が化石燃料からどんどん排出され、それが地球を布団のように包む。従って、太陽の熱エネルギーが別に増えているわけではないのですけれども、太陽の熱が地表で反射して大気圏外に出ていくはずの熱を布団が閉じ込めてしまう。だから温暖化していくのでありまして、それがCO₂であったり、最近はずのげっふのメタンとか、昔はフロンとか、いろんなことが言われていたわけでありまして。当然、温暖化になりますと、地球の淡水の七割が実は南極大陸にあるわけでありまして、南極大陸だけではなくて、例えば、日本の気象にも非常に関係のあるヒマラヤの万年氷が解け、これが流れ出して、あの中国のせき止め湖のように標高五千メートル以上のところに数千とも言われる氷河による湖が今できています。五千メートルのところにある氷河湖が一挙に決壊し流れ出すと、下流の中国であろうが、バングラデシュであろうが、インド

であろうが大水害になります。一度大水害になった後どうなるかという点、今度は水が来ないという状況になっていく。つまり気候変動というのは、洪水や、雨がドーンと降る地域がますますひどくなると同時に、干ばつもますますひどくなるという二極化が広がるというように言い換えてもいいだろうと思います。一九七八年には氷の塊というか氷河だったヒマラヤが、その二十年後にはほとんどこれがなくなつて、下の方にちよろちよろ流れていつて、どこかせき止められたところでとりあえずたまつている。これが、ある日突然決壊をする。決壊した後は、上からは水だった水が流れて来ないということになるわけでございます。(表3)

そういうことで、日本はたびたび地震があつたことによつて地震に対する経験、あるいは対策が世界一進んでいることは自慢ができるだろうと思ひます。それから水管理ということに關しても、稲作が始まつた二千年前から実は水なしではアジアモンスーン地帯における水田というものは成り立つていなかつたわけでありまして、それ以來、日本の水技術というのは大変進んでおり、優れたものであります。淡水化の技術であるとか、あるいはまた水をきれいにする技術であるとか、そういった最先端技術もそうでありますし、水道普及率と水系伝染病患者との關係というデータにもありますように、明治の初めは下水も完備されていなかつたし、ちよつとした川に、いわゆる生活雑排水や尿尿が流れていつ

てコレラが発生したのを、明治の人たちが衛生面や洪水面からの水管理というものを必死になつてやつて、現在は水道普及率が九八%近くになつた結果、水に係る伝染病がほとんど減つてきました。

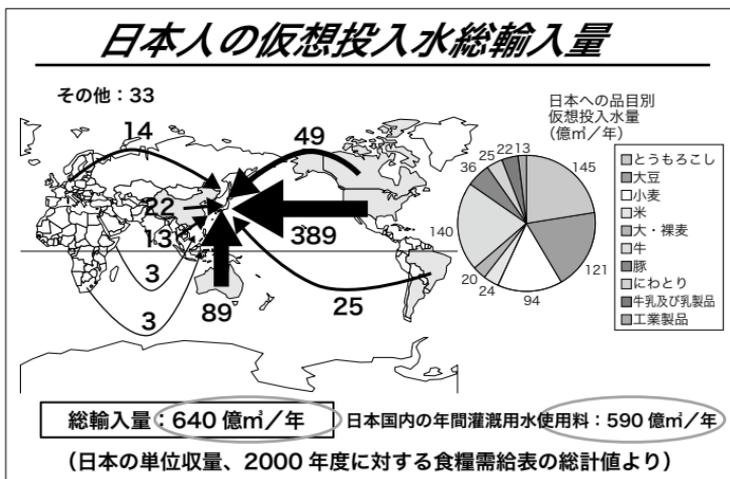
あるいはまた、戦後の伊勢湾台風で五千人以上の方が亡くなりましたが、今は、台風被害は増えてまいりましたけれども、水害で亡くなる方というのは毎年二けた、百人を超えない数字になつています。つい五、六十年前までは毎年五千人以上の方、つまり阪神・淡路で亡くなつたのと同じぐらいの方が水害・台風で亡くなつていましたけれども、今や二けた以下になつてきています。これも水管理の一つの結果であります。ただし、北海道は最近、台風が多くなつてまいりました。昔は台風が来ないという前提でしたので、北海道を直撃する、あるいは強い台風が来るといふ状況になつた時に水害対策としては、全国である意味では一番遅れている地域であります。温暖化によつて、おいしいお米もとれるようになつたし、台風も来るようになった。これはこれで水が増えるという一つのプラス要因ではありますけれども、管理不能な災害、特に台風に対しての備えが北海道は実はまだできていません。これをやるのが非常な急務だろうと思つています。(表4)

(表 2)

世界の水に依存する日本

仮想水(飲料などの輸入品を仮に日本で作ったとした場合必要になる水の量) 関係
(東京大学沖教授資料より)

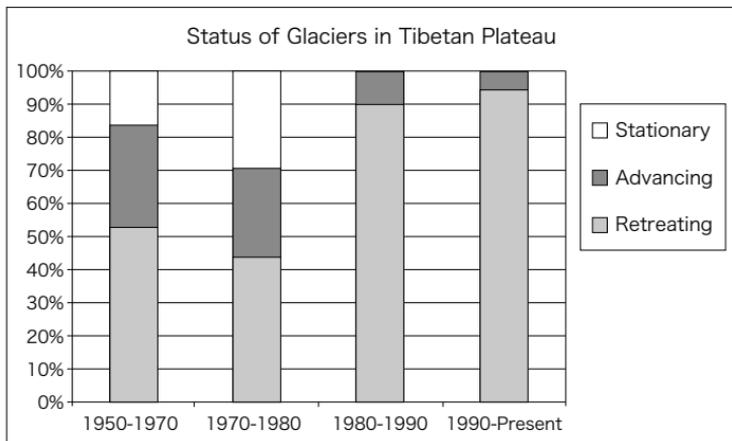
1. 1kg の小麦を作るには 2,000 リットル(一人が使う日本人 6 日分の水道使用量)の
水が必要、1kg の牛肉を作るには 2,0600 リットル (同 85 日分) 分の水が必要。
(東京都の一人一日あたり水道使用量 330 リットル)
2. 日本の仮想水総輸入量は年間 640 億トン、日本の年間灌漑用水使用量(590 億トン)
より多い。これだけの水を仮想水として海外に依存。
3. 例えば牛肉の輸入により、日本は年間海外から 140 億トンの水を輸入しているこ
とになる。これは日本の年間生活用水使用量 160 億トンとほぼ同じ量。



(表 3)

危機的な状況にある氷河期の状況 (国際山岳開発センター (ネパール) 資料等)

1. 氷河の役 95%で氷河の後退が生じている (グラフの青い部分)。また 200 カ所の氷河湖が危険な状態にある。



2. ヒマラヤの氷河融解の状況 (名古屋大学雪氷圏変動研究室資料)



1978年の状況



1998年の状況

エネルギー、資源、食料、水は四位一体で解決を

世界の水問題というのは、不足の問題と、水質の問題が当然あるわけです。ボウフラが湧き出るような水も困りますし、日本の場合、地下水というのは総じてきれいなイメージが強いわけですが、世界では実はかなりの確率で危険だということでもあります。地下水を掘っていくと塩が出てくるぐらいはまだいい話であって、日本でも一部あるのですが、バングラデシュとかケニアといった地域では地下に人工的ではなく天然の砒素の層があり、地下水を掘ると砒素が出てくるところが多いと言われています。砒素はどうしようもない毒物であるわけであります。あるいはまた途上国では、川とか、あるいは上水道の横に下水道がほぼ並行して走っていて、この下水道が非常に老朽化あるいは稚拙な技術のものですから、下水道から汚水が漏れ出して上水道、あるいはまた池・川等に入り込んでしまします。そして、お腹を壊すならまだいい方でありまして、五歳以下の乳幼児が年間百八十万人も死ぬというデータがありますけれども、本来、飲めるはずの水が汚れてしまうという問題もあります。

それと、途上国においての大きな問題は、「無収水」ということです。収入がない水、つまり漏水、盗水、これが発展途上国では非常に大問題になっているわけです。水泥棒と

という言葉がありますけれども、世界中では水泥棒は当たり前です。あるいはまた、水道管が通つてもパイプの継ぎ目で、あるいはまた土管が腐食して、せつかくの水が途中で漏れてしまうということが大問題になっています。水道の漏水防止関係というデータがありますが、東京は最も少なくて三、四%です。イギリスのロンドンでも三〇%近い。あるいはまた、途上国に行くと三〇%以上の水が盗まれたり漏れたりして、これがまた効率の問題、あるいは安全な水が確保できないという問題になってくるわけです。

いずれにしても冒頭申し上げたように、エネルギー、資源、食料、水は四位一体です。水だけでは物事は解決しませんし、もちろん食料には水が必要です。今やエネルギーと水、エネルギーと食料というのは協力関係になったり、またトレードオフの関係になったりするわけがあります。これらをトータルとして世界的なレベルで改善をしていかないと、貧困あるいは疫病、あるいはまた紛争、そしてアフリカなどでは水を汲みに行くのが一日作業という地域も結構あるわけがあります。一日かけて十何キロも先のところに水を取りに行く。これが子どももの仕事ということになると、子どもはまともな教育を受ける機会が失われてしまいます。あるいは女性の仕事ということになると、女性の自立といいましようか、ほかの農作業とか、何か手芸品を作って売るといったことが、水を確保するだけで一日が終わってしまうということで大変大きな問題になります。このほか、言うま



でもなく、これと気候変動とは密接な関係がありますから、生態系の悪化、絶滅種の増加といった問題にもつながっていくわけであり
ます。

これらが世界の水の現状であります。従って、北海道洞爺湖サミットで貧困問題、気候変動、あるいは教育、疫病対策、これは、すべてではありませんが、ある意味では「水」という切り口で括れるというか、水問題を解決するというだけでも、四位一体の関係ではありますけれども、少なくとも最低安全な水が確保できて、そしてまた下水がきちんと処理されれば、かなりの部分、特に貧困地域においては貢献できるというのが私の基本的な考え方であります。

水というのは、日本でもそうなのですけれ

ども、湖・川に流れてくる水、雨水、最近は雨水利用などというのがはやっていますが、これは本来所有者はおりません。それから、川の水も湖の水も本来、管理権はありますけれども所有権はありません。自然水というのは本来、所有権がなくて、そして無主物で、鉱物で、売買価値が本来ただのものであります。しかし、皆さん方も札幌や帯広で水道を使う時には水道料金がかかります。これは当然、衛生管理、あるいはまた管をつくるためのコストでありまして、これは東京の場合ですが、水道料金はいろんな体系がありますけれども平均すると一トン二百五十円であります。千リッター二百五十円、つまりリッター二十五銭、〇・二五円であります。牛乳一リッターだと、一体幾らするのでしょうか。百数十円です。ペットボトル、これはピンからキリまでありますけれども、五百ミリで大体百五十円から、私がおいしいなど思つて時々飲んでいるコンビニで二百数十円の水がありますけれども、これもリッターに換算すると大体三百円から四百円ぐらいです。水道水はリッター二十五銭から三十銭。さて、石油一リッター、今幾らしますか。こういう計算になつてくると、実は水、特に管理された衛生的な日本の水というのは極めて安いのですね。牛乳が高過ぎると言つたら農家の方に怒られるかもしれませんし、ガソリンが高過ぎると言つと、世界中、政府が悪いのだといつて、今、大問題になつてゐるわけであります。ペットボトルの水が健康にいいのだというのも、健康に悪くはありませんけれども、ペッ

トボトルも厳密に言うと、中身の成分をよく読んで、自分の好みとか体を考えてぜひ選んでいただきたい。水質上はもちろん問題ないと思いますが、PH（酸性度）の問題と硬度の問題などがあります。安全と風味といましようか、ヨーロッパのように一八〇〇も硬度があるもの、東京の硬度は五〇、帯広の水道水の硬度は一五度です。さつき私がおいしいと言った水は、高いのでしょっちゅうは飲めないのですけれども、カナダの四千五百メートルのロッキー山脈の氷を自然に解かした水でありますが、硬度というのはミネラル、カルシウム、つまり地下を通って、地下の鉱物資源が混ざり、そして硬度が高いとか低いとか、おれは硬水が好きだ、おれは軟水が好きだとそれぞれ嗜好があると思いますが、私は軟水が好きですから、私が飲んでいる四千五百メートルでとれた水というのは硬度はわずか一です。ほとんどミネラルが入っていません。骨粗鬆症を心配される方は多分、ミネラル、カルシウム、マグネシウムをとった方がいいのだらうと思いますし、日本のお米にはどちらかという軟水系が合います。

ロンドンの硬度は三〇〇とか四〇〇だそうでありまして、私の友人でロンドンにいた人間がそこで入れていた紅茶とか炊飯器を日本に持ってきて同じようにやっても、水道水の硬度が全く違いますから、全然味が違うそうでありまして、ただフランスの何とかがいい、アメリカの何とかがいいではなくて、少なくとも硬度だけは自分の好みによって選ぶ方が

賢明です。もつと凝っている人は、ご飯を炊くときは日本の水道水、もしくは日本のお水というんな好みがあるのですけれども、これはある意味ではぜいたくな話であって、何でヨーロッパへ行くとガス入りウォーターがはやってるかというところ、ガスを入れないとまづくてとても飲めないから、無理やりガスを入れてソーダのようにして飲んでいるというのが出発点であります。やはり日本の場合には水には恵まれているということです。

日本が呼びかけ世界水機構（WWO）を設立しよう

それと同時に日本がもつと恵まれているのは、この通りの島国でありますから国際河川がない。つまり、水をめぐる国際紛争というのは世界中至るところであるわけです。例えば中東などというのは、ヨルダン川をめぐってイスラエルと下流のアラブの国とが戦争をするぐらいに戦っている。ナイル川も、エチオピア、スーダン、エジプトの間でしょっちゅう水戦争をやっている。メコン川に至っては、中国からカンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムなど七カ国ぐらいが常に水戦争をやっています。世界的には、実は国際河川ということで上流がある意味では強いという問題がある。あるいはまた、川で国境が挟まれて分かれているときには対岸のほうで大きな水吸収施設を造る。または、上流の方で

汚いものを流すと、けしからんということになります。ライバルという言葉がありますね。この語源はリバーから来ているのだそうであります。つまり、水の取り合い、川の取り合い、これは人類始まって以来の一つの永遠の問題なわけですけれども、この水・川の取り合いが実はライバルという言葉、リバーから来た言葉だそうです。ですから日本では田んぼなどで特に上流・下流で水争いというのがありましたけれども、外国との間で水戦争というのはありませんでした。今後も多分ない。国際河川が世界の川の四五%の水量を占めております。国際河川沿いに住んでいる人たちが、世界の人口の六割いるわけであります。つまり、世界の六割が常にライバル関係にある。日本だけは、少なくともほかの国との間ではライバル関係、水争いというものが無いということは、ある意味では大変ありがたいことだと思っております。

そういうことで大体の時間が過ぎましたが、いろいろ問題を申し上げました。エベレストの問題、チベットの問題、それから北極海の問題、あるいはオホーツク海の問題など、つまり、凍っている海がだんだん解け出してきた。オホーツク海というのは世界で数少ない閉ざされた海ということで、今研究者の間で非常な研究対象になっているのだそうであります。もともとはアムール川の淡水が冷やされて氷になって、それが海水に解け込んで固まったものです。海水というのは凍る温度がより低いですから、先に淡水の方で凍って、



どんどん下がっていく。それが北海道まで押し寄せる。これがどんどん少なくなってきたというのですが、生態系、特に漁業資源に与える影響が大きいと心配されています。特に北極海になりますと、最近ニュースでよくやっておりますけれども、あそこに地下資源があるというので昔なら戦争一步手前のような状態になっているわけでありませけれども、日本にとつては直接関係ありません。

仮に北極海の氷が減って普通の船が通れるようになった時に、まず物流が変わります。今までは、ヨーロッパに物を運ぶのに船で運ぶとするならば、インドの先を通してスエズ運河を通って行くか、あるいはアフリカの南を通って行くかということでありませけれども、万が一、ヨーロッパを北極海経由でロシアの上をずっと

通つて入つてくるとすると距離が半分から三分の一になります。これはもちろん冗談でありますけれども、今から百年前、日露戦争勝利を決定付けたのは、バルチック艦隊が地球を半周して疲れに疲れてきたところを、ゴツンとやつたのですけれども、万が一、バルチック艦隊が北極経由で三分の一の距離で、しかもイギリスの嫌がらせもなく元氣なまま来たら、日本は負けていたかもしれません。北極海が凍っていたことが、ある意味では日本が日露戦争に勝つた最大の原因ではないかとすら思うわけですが、とにかく北極、南極、あるいはグリーンランド、あるいはヒマラヤ、アルプスといった氷に閉ざされていた地域が解け出したことによる経済的あるいは軍事的な変化について、私は特に北極海が劇的な主役を演じるのではないかと思つているわけであります。

もう一つは中国の山峡ダム（※注）です。これは、氣候が変動するという問題と、見えない砂が湖の中に入つていきます。これは専門家の受け売りなのですけれども、あそこに巨大な水力発電所があります。タービンが回っています。あるいは、いろんなパイプがあります。これが見えない砂のやすりで毎日毎日削られています。あるいは、いろんなパイプがあります。これが見えない砂のやすりで毎日毎日削られています。いろいろなパイプがあります。いつ故障するか分からない。そして、ここには日本の技術がかなり入つております。日本の機械メーカーのタービンとかその辺が随分入つておりますけれども、これがいつ破損するか分からない。破損すれば修理するということなのですが、永久保証という約束をさせら

れているのだそうでありまして、万が一、砂のやすりで毎日削られている山峡ダムの機械部分あるいはパイプ部分が破損した時には、外国人というのは絶対自分の責任にしませんから。WTO交渉などでは自分が一〇〇%悪いと思っても絶対認めませんから、その時に、日本の機械メーカーが悪いのだとか何だかんだと難癖をつけられる。見えない砂が山峡ダムの中に溶け込んでいることによる大問題というのは、日本では考えられないような問題が発生しかねないというのが、専門家の大変な心配点であります。

先ほど申し上げたようにレアメタル、あるいは植物の生育の三要素である燐、窒素、カリ、特に燐が中国もアメリカも輸出禁止になつてどんどん少なくなつていきます。外国から燐を安定的に確保するということが少なくなつてきております。レアメタルもそうです。では、日本はこのまま何もできないのかというと、大変膨大な燐やレアメタルなどが実は下水の中に眠っている。これが、いわゆる都市鉱山と言われているものです。下水を単に処分して、燃やしたり、黙って海に流すのではなくて、実は下水というのは廃棄物ではなく有用な資源がいっぱい詰まっている大切な鉱山なのだということにわれわれは気づき始めたわけがあります。この都市鉱山、つまり札幌の下水道、あるいは東京の下水道の中にはレアメタルを含めた有用な資源がたくさんあるのだということ、日本の技術でこれを何とかしたいものであります。

いずれにしても、ライバルあるいは水戦争ということ考えた時に、第二次世界大戦の原因がブロック経済化でありました。それを二度と繰り返さないということでGATT、あるいはまたWTOができたわけでありますけれども、私は、世界水機構、ワールド・ウォーター・オーガニゼーション、WWOというものをぜひ日本に作るべきだということを、今週中に総理に報告をして発表したいと思っております。

※注

【中国・三峡ダム】一九九三年に着工、二〇〇九年完成予定。洪水抑制、電力供給・水運改善を主目的としている。山峡ダム水力発電所は、完成すれば一、八二〇万kWの発電が可能な世界最大の水力発電ダムとなる。

貯水池は湖北省宜昌市街の上流に始まり、重慶市街の下流にいたる約六六〇Kmに渡り、下流域の洪水を抑制するとともに、長江の水運の大きな利便性をもたらす。加えて、水力発電所は中国の年間消費エネルギーの一割弱の発電を有し、電力不足の中国においても重要な電力供給源となる。また、火力発電や原子力発電と比べCO₂の発生も抑制することができる。しかしその一方で、建設過程における住民一〇万人の強制移転、三峡各地に残る名勝旧跡の水没、更には水質汚染や生態系への悪影響等、ダム建設に伴う問題も指摘されている。

国内問題では統合的な日本水戦略センターを

それから、言うまでもなく役所の縦割り、七省庁が関係しております。上下水道というのは自治体が実施主体であります。従って、縦割りと横割り、国と地方の関係、これを何とかスムーズなものにしたい。今や、「下水」を「中水」というかニューウォーターにして、究極的には飲めるけれども、それ以外にも貴重な資源が眠っているということで、上下水道も一体化する。あるいはまた広域化する。場合によつては世界の流れのように民営化する。今までの上下水道のプロたちがみんな団塊の世代で、これからどんどん定年退職していくわけにありますけれども、そこを民間に再就職していただくとか、いろんな形で民間の活力あるいは人材を生かしていくということは、ある意味では必然であります。民営化ありきなどと言うと自治体から怒られますけれども、今、世界の上下水の六%が民営化されておりますが、あと十年たつと、これが二〇%から三〇%になる。もちろん営利ですから、フィリピン・マニラのフランスの会社のように、損をしたらさっさと撤退した例もあります。すけれども、もうかるところはもうかるし、もうかるところしかやらないわけです。そういう意味で、役所の縦割り、横割り、それから民営化の問題、こういった問題を日本の国内でやっていかなければならないと考えています。

ある意味で一番頭の痛い財政問題としては、明治の初めに懸命に近代的な設備を造つてまいりました。それが完成したら、今度は第二次世界大戦で主要都市がみんなぼこぼこにやられた。それで、また造り直した。これが六十年、七十年たつて更新時期に入っているわけであります。これは何も上下水道だけではなくて、トンネルも道路も橋も電線も含めてそうなのですけれども、上下水道だけでも日本中を全部新しいもの、つまり鉛管でなくするとか、耐震性を強めるとか何とかということになると全部で百十三兆円かかるというのです。日本の一年間の予算の一・五倍、そんな金どこにあるのだと言われそうですが、もちろん単年度でやるわけではございませぬけれども、こういった日本の戦後を築き上げてきたインフラがそろそろ更新時期に来ている。きょうの地震ではありませんけれども、全国の学校だけでも震度六以上の地震に耐えられない施設が一万棟あるというのです。こういった問題にどう対応していくかといったこともこれから大きな問題です。世界に向かっては、世界水機関をぜひつくってライバルを少しでも解消していこうと思います。

日本の中には、統合的な日本水戦略センターというか戦略機関というものを作つてみたい。実は水の国際協力というのは、NPOの皆さん方というのは非常に小規模なもの相手のニーズにかなった形で、しかも役所や政府がやる以上にリスクを冒しながら大変貢献をしておりますから、国、企業、あるいは専門家、そしてNPOがトータルで国の

内外の水戦略を統一的にやっていくような省をつくれと言うとまた怒られますけれども、そういった組織がこれからはどうしても必要になってくるのかなと思っております。

洞爺湖の水温も数十年で一度上がったというニュースもあります。日本では水だけは当たり前だと思ってるかもしれないけれども、気候温暖化の影響があり、しかも、もともと日本だってそんなに水は多くないのです。しかも、三千メートルのところに降った雨や雪が、あつという間に滝のように海に流れていく急傾斜の地形だと水が保たれません。だからこそ森林とか水田とか農地を守っていくことが大事だし、何よりも節水ということが大事であります。一日一キロの節水のために温度を二度上げろ、下げるとかいう表がありますし、蛇口を一分間ひねっていると十二リッター、五秒で一リッター出るわけであります。これも、私もなかなかやれませんが、歯を磨いている間水を止めていけば、金額にすれば一円かもしれませんけれども四リッター節約できる。あるいはお風呂に入る時はばらばらに入るのではなく連続して入るとか、場合によってはシャワーで済ませるか、そういったちよつとした心掛けというものも、ある意味では水の潜在力を備蓄するという観点では重要なことです。最後は一人ひとりの心がけといましようか、皆さん方の支持なくしてはWFOもできませんし水戦略センターもできない。そして、水は生活、あるいは企業活動、農林水産にとっても大事だということを、危機意識とともに、日本は

トップだという自信と、両方をせびご理解いただきながら洞爺湖サミットを見ていただきたいということを申し上げ、私の話を終わらせていただきます。

とりあえず眠っている人はいらっしやらないようで、一時間聞いていただいたことに御礼申し上げます。ありがとうございました。(拍手)

上下水道は広域管理や中水管の敷設が必要

○司会…中川先生、ありがとうございます。食料とか資源、エネルギーという話はかなり伺う話ですけども、水という切り口で、洞爺湖サミットを目前にこういう鮮度抜群のお話を承る機会は、そうそう皆さんもなかったのではないかと思います。レスター・ブラウン博士も来日して、きょう洞爺湖からニュースに出ておりましたけれども、やはり、いよいよ日本が本当の意味で環境をリードする、二一世紀における存立をかけた一つの正念場かなと。こんな感じもいたします。先生のおっしゃった世界水機構というものを日本から発信して実現させたいものだと考えます。それでは、会場の皆さんからご質問をいただきます。

○会場質問者A…私、もとゼネコンにいて、今、土木などに関する研究教育をやっています。

す。それで、先生の水問題というのは非常に身にしみて分かったのです。実は、去年、私は北見におりまして、水道に泥水が流れ込んで三日間使えなくなつて、それでトイレが使えなくて、市民が難民化して周辺の町へボトルを買ひ求めにあちこち行きました。それで、市の当局のオペレーションが悪いかというところ、そうでもないのです。取水口が訓子府の近くにあつて、それで水源地涵養林かんようりんのなものが全部市の外にあつて、そこで最近、木の値段が上がつたように皆伐しているのです。それで、よく見ると、雨が降ると泥水がダァッと流れてきて、道路近くの空堀を越えて道路に流れてくる。それで町の方も、来たら必ず泥をかき取るぐらいです。木を売り時に売るのはいいのですけれども、あんまり一ぺんにやつてしまうと北見のようなことがあちらこちらで起こるのではないかと思ひます。また道の方でも、森林を植えてその分の二酸化炭素を取ろうとしていますけれども、最近の森林の皆伐の勢いは目に余るものがある。水の問題などもあるので、あれは何とかならないか。先生のお考えを教えてくださいと思ひます。

○中川・北見の去年の話は武部勤さんとか市長からちよつと聞きましたが、今おつしやつた通り予想をはるかに上回る水が、文字どおり鉄砲水で入つてきたということですね。それで、今ご指摘のように幾つかの問題点がトータル的に複合・増幅されて、ああいうことになつたのだらうと思ひます。一つは、水源涵養林かんようりんといふか森林ですが、確かに木材価格

が上がっている。それで、日本の木材は今、輸出が非常に増えています。需給率も上がっていますけれども、輸出が伸びている。これは韓国、中国にどんどん行って、そこで家具にして、日本がまたそれを買っているという不思議な状況なのですけれども、今、日本中の木が結構売れているらしいのです。木というのは一人前になるまでに十年、二十年、三十年単位なわけですから、やはり皆伐の仕方をよく考えないと、例えば今、シベリアで中国、北朝鮮の人が物すごく違法伐採をやつて、あそこで雨や雪の降る量が少なくなつていと言われているほどです。中国の場合は農地が荒れていますけれども、逆にめちゃくちゃ植林をやつているので、一部は何とか雨量が増えている地域もあります。さらに、昔フェニキアという国が地中海を支配していた最大の原動力としてレバノン杉がありました。これは物すごく堅くて優秀な杉があつたのですけれど、それを伐採してしまつてフェニキアも滅びましたし、あそこは今や砂漠になつてしまいましたね。アマゾンの一部そうなっています。世界で二番目のアフリカのコンゴ森林も、今そういう状況になつています。森林伐採というのは、水との関係、あるいはまた海とも関係がありますから、「森は海の恋人」なんて漁業者の方も最近よくキャッチフレーズで言つてくれています。

もう一つは、私はさつき地方自治のことも言いましたが、やっぱり上下水道の広域管理をやつていかなければだめだろうと思います。例えば、今、地方分権の議論がありますけ

れども、県内を流れている一級河川を仮に県に任せてしまうと、自分のところだけは水をきれいにして、勝手に使わないで、ほかの県から水を買ってくるのではないかと心配している学者がいます。北海道というのは、石狩川水系、十勝川水系、天塩川水系とか、あそこは常呂川になるのかどこになるのかわかりませんが、やっぱり水管理というのは上下水道をはじめとしてみよう少し広域で、ある意味では北海道全体で管理しないと、さっきおっしゃったように水は北見だけでも、取ってくるところは訓子府ということになると事業主体が全く違っているわけですから、そういう問題も実は私の問題意識の中にあります。そういう幾つかの複合問題が一举に去年の北見には出て来たのでしよう。

それで、おっしゃったように、飲み水も困るでしょうけれどもトイレの水が流れない。私も一度経験をしたことがあります、わが家のトイレが動かなくなりました時は悲惨でした。最後は吸盤か何か買いに行つて家じゅうでやった記憶がありますが、水洗が前提であるトイレが水洗でなくなったときの悲惨さというのは経験しないとわからない。それを町中で経験したわけですから、これがある意味では奇貨として、緊急時の増水、それから無水、これはセットで来ます。増水した結果、上水道が出なくなりましたという話ですから、さっきおっしゃったように一つは中水管というのをつくっておく。再生水というか、例えば排水を浄化してトイレ、あるいは庭の水まきとか洗車に使う。それから、

最近は自主防衛的に雨水を利用するとか、そういったこともありませけれども、北見の例というのは、まさに不幸なことが幾つか重なった典型的な例だろうと思います。

○会場質問者A…いろいろな国際的などころから、また自治体のこととか大変幅広く、しかも的確だったので、さすが先生だと感じました。ありがとうございます。

環境問題や食の安全、節水にも自己責任を

○司会…それでは、ほかにございますか。たくさん質問をしたい方がおられると思うので、なるべく手短にお願いたします。

○会場質問者B… まず一つですが、先ほど水害の話が出ましたが、世界の水害や洪水のニュースはアジアではよく見かけられるのですが、アメリカとかヨーロッパとか余り見かけません。アメリカやヨーロッパあたりでは百年から三百年単位の災害が起きてても耐えられるように整備されていると聞いています。オランダなんかは特殊で一万年という話を聞いたのですけれども、日本はどうなのだろうということ、個人的に調べたのですが、正しいかどうか分からないのです。首都圏レベルで三十年に一度の水害に耐えられるレベルかどうか。わが北海道は、そういった数値が以前はあったらしいのですが、今はそれもなくなって、

なるべく人命にかかわらないぐらゐの災害で収まるのだっただけならいいぐらゐの形で、その辺の基準が緩やかになってきているという話を伺ったのですけれども、その辺これから日本の政府としてはどのような方針でいかれるのかというのが、まず一点です。

もう一点は、今、日本は石油をタンカーで輸入しているのですけれども、帰りはバランスをとるためにバラスト水という海水を入れて向こうに持っていつているという話を聞いています。向こうでは水の値段の方が高いというのであれば、日本の良質な水を持つていつたらいいのにも思つたところが、なぜそれができないかという水利権の問題があるという話を伺つたことがあるのです。これも当然、無尽蔵にあるわけではないので数量などは調整しなければいけないと思うのですが、帰りにバラスト水を積んで行くぐらゐだつたら淡水を向こうに持つていつて、物々交換に比較的近いような形にすればいいのではないかと思つて、その水利権という問題を解決するとしたら、まさに国にいろいろと検討していただければありがたいと思うのです。この二点に關しまして中川先生のご意見をお伺いしたいと思ひます。お願ひします。

○中川・まず水書については、アメリカでもヨーロッパでも非常に頻繁に起こつています。洪水に關して言う、ハリケーン・カトリーナというニューオーリンズの大災害からまだ完全復旧していません。それから、今年になつて五大湖で大洪水があつて、ウイスコンシン

州が水浸しになっていますね。ヨーロッパでもあります。それから、逆にアメリカで心配しているのは、アメリカの農業用水の四分の一は冒頭申し上げた何億年前にたまっているオガラガという帯水層を利用しています。この水位が、使い放しでめっちゃくちや下がっています。私は、量が多くて困る場合と少なくなる場合の両方を水害と呼んでいますけれども、それはあります。だから、百年がい

いといつても、百年のものが明日来るかもしれないし、百年間来ないかもわからない。統計だけの話ですから。伊勢湾台風の後、防波堤を造って、大蔵省が無駄な査定だと言われました、世界三大バカ査定として、戦艦大和と伊勢湾台風と北海道まで至る新幹線が昔、槍玉に挙げられたことがありますけれども、これからますます伊勢湾台風以上のものが来る可能性があるのです。さっき言ったように台風はますます凶暴化していますから。



それから、昨日もある水の専門家と話したのですが、北海道の場合には、伊勢湾台風ぐらいのものが来ればひよつとしたら何千人という人が生命の危険にさらされるかもしれないということなので、一概に日本がきつくすればリスクゼロかというと、そうでもない。まず、日本はアジアモンスーン地帯で、降水量は梅雨と台風と雪の三つの時期で千八百ミリのうちの八割から九割ぐらいは来てしまうわけです。そういう意味で、もちろん安全を十分に見た方がいいかもしれないけれども、余りにもきつくすればいいのだという今の世の中の流れというのは、何か自己責任転嫁みたいな。こういう場だからはっきり言いますけれども、食は絶対安全でなければいけないとか、車は絶対安全でなければいけないということ全部他人任せにして果たしていいのだろうかと思えます。一部は自己責任というものもあって、日ごろから雨水をためておくとか、昔はトイレの水を一回流すと二十リッター流れていたのが今は五リッターです。こういった省エネ、節約水という考え方を一人ひとりでやってくださいよということを、こういう場だからぜひ皆さんに訴えたかったわけです。

それから、水の輸送についてですが、これは非常に大事なポイントで、日本の攻めの戦略の一つだと思っています。今日は時間がないのでやめましたけれども、水利権の問題は確かにあります。さっき言ったように源水そのものの所有者はゼロですけれども、農業用

水、工業用水、何とか用水というのがあって、一番上位にあるのは農業用水なのですが、余った水は全部、国土交通省に返しますよということになっています。これは縄文時代からの既得権を法制化したという非常にややこしい問題があつて、縦割りを止めると言つたのは、法制度もある意味では変えなければいけないということです。それで、水を輸送するのに水利権が問題かもしれません。一番の問題は、水というのはもともとただのものを運ぶのにめっちゃくちや輸送費がかかるということです。それで、昨日も水の専門家に何とか水を凝縮できないかと聞いたのですが、H2Oというのは、ご承知のとおり四度の時が一番小さくて、氷になつても、それより熱くなつても膨張するわけですが、何かいい方法がないかと思つていたら、今日の新聞に、スイゼンジノリという一グラムで六リッターの水を吸収する成分がある藻をどこかで発見したというのですから、六千倍分吸収できる藻ですよ。重さは重くなりますけれども、体積がその藻の中でどのぐらい膨らむのか分かりませんが、そういった方法も含めて船賃を安くすることが水輸送の最大のポイントです。

トルコ領・キプロスというところは水がほとんどありませんから、トルコから千トンの水袋をタグボートで引つ張つて水上をピストン輸送しています。それは自分の国だからコストをかけてでもやっていますけれども、おっしゃったように、中国がまじめにやるので

あれば日本から河北省あたりにきれいな水を買ってやってもいいぞということにもなりません。ただし、コストをできるだけ下げたい。僕は、水の輸送というのがこれから一つ大きなポイントかなと考えています。

それから、雲にヨウ化銀か何かを打ち上げて雨を降らせるというのを時々中国がやっていますけれども、水というのは遍在していますから、なかなかこれもうまくいかないようですね。これからますます遍在しますし、輸送・移動もしにくい。最も、原価ただのものを運賃だけかけて、しかも今、船賃が非常に上がっていますから非常に大きな問題ですが、まさに水の移動というのは僕も非常な問題意識を持っています。いい質問だと思います。

○会場質問者B：ありがとうございます。

国益は、絶対的な外交の基本であるべきだ

○司会：ほかにございますか。

○会場発言者C：どうも、こんにちは。私は札幌の高校で政治経済を担当しています。テーマからずれるのですが、よろしいですか。先生は昨年度の慶応大学での講演の時に、原

爆慰霊碑についての言葉の感想を述べられて、僕もその通りだなと思って感銘を受けたのですが、大学生の反応はどうなのか教えていただきたいことが一つです。もう一つは国益の問題で、先生はガス田の試掘権を最初だと思っておりますが、先生のお考えをお聞かせください。

○中川・去年の年末に慶応の総合政策学部で講演をして、正直言って一時間半の講演の内容はあまり覚えていないですけども、あの後、学生百何十人から感想レポートみたいなのをもらいましたね。けしからんということはないですね。ちよつと勉強すれば、原爆を落としたとか、東京大空襲で周りをまじ焼夷弾で囲んでおいて人が移動できないようにして無差別爆撃をしたというのは、まさにアメリカの人道に対する罪です。もちろん戦争はよくないし、どつちがしかけたかというのは別にして、ほとんど負けそうになっている一般人に対して十万人、三十万人単位でやるというのは、これはまさに実験したのです。ドイツやイタリアにはやらない実験を日本でやったのだなと思っております。朝青龍が、勝負が終わった後に相手を突き飛ばしたみたいな感じの。これは両方にちよつと失礼な話かもしれないけれども、人権擁護法などというのは、多分八割、九割は若い人たちからメールが来ます。つまり、普通のテレビで報道しないから一般の人は分からないのです。ところがネットというのは、僕もメールを見ることぐらいしかできませんけれども、私の発言に

対しても、夜中の三時何分に「おまえの発言はおかしい」とか、その三分後に、いやーどうだこうだと、僕の核議論発言などというのは二日も三日も二十四時間やっているのがいて、これはすごいなと思いましたがね。そういう意味で、一般のマスコミでは知らない情報がネットを通じて入ってきます。めちゃくちゃなやつとか、ふざけたやつもありますけれど、私のところに来る人権擁護関係は一〇〇%反対の人なのです。だから、逆に賛成の人の意見が一つも来ない不気味さというのを今、実は感じているわけです。

私は、あの戦争を聖戦化するつもりもないし、ばかな戦争をやって負けちゃったなと思っっています。戦争というのは勝つためにやるわけで、負ける戦争をやってしまったなとも。それから、広島、長崎、東京を含めて一般人がやられるというのは



非常に悲惨なことなのでね。来週、早稲田でもちよつと話すのですけれども、むしろ学生たちの方がそういったことにピンピン反応してくれます。もちろん反対という人もいますけれど。大体、僕がしゃべると、賛成、反対を含めて結構真剣に聞いてくれるのです。それで激しく反応してくれるので、実は大学でしゃべるのが最近、非常に楽しみというか、なるほどと教えられることが非常に多いですね。高校生以上の人たちからしょっちゅうメールが来ますが、やっぱり真剣に考えていますね。掲示板とかいう世界は僕にはよく知りませんが、あそこはまた別の世界なのでしようけれども、最近の若い人たちは真剣だと思いません。医療、年金のことも含めてですね。

それから、国益というのは絶対的な外交方針の基本です。拉致問題も東シナ海の問題も、これは主権の問題であり、主権を遂行することが国益だと考えています。人権侵害もあるけれども、主権侵害もある。拉致問題では国益を損なわれましたし、中国も加盟している国連海洋法に基づく今のルールというのは中間線原則ですから、中間線よりこちら側のものを勝手に吸い取るというのは国益違反である。ただし問題は、三十年ぐら前から日本もあの辺を調査したし、二十年ぐら前から中国が調査をしているのが分かっていたので。最初は平湖という中間線の向こう側ですけども、九七年に採掘を始めた。その時から本当は日本としては敏感に反応しなければいけなかったのが、三年前、私の時に、あれ

だつてきつかけは新聞の一面トップの記事を見て私も初めて知つたぐらゐです。だから、本当に安全保障とか国益に関しては鈍感というか、情報が入つてこないというか、情報を入れないというか、そういうことに慣れ切つてゐるということです。それで、当然、日本の鉱山法に基づく大臣の試掘権を与えた。

あの石油会社は次に何をやるかというのと、試掘しようとしてゐるところの漁民と話し合ふのが次のステップであるにもかかわらず、それすら政府が支援をしないのです。外交問題ではないのです。外交問題というのは穴を掘つた時から外交問題なのですけれど、あの石油会社は、試掘権をもらつたら、まず漁民の皆さんのところにあいさつに行つて、かくかくしかじかで、とりあえず何本かのパイプを掘らしてもらいますというのが次のステップになります。これは全く国内問題であるのに、これすらやらない。そうすると、相手はまた甘く見るのです。これは大丈夫だなど。だから、齋木局長はよくやってきたとは思ふのだけれども、拉致問題でああいう結果になつてしまつた。次は東シナ海が、実はトップの判断でわけの分からない平等原則みたいな、形だけの平等原則で話が進んでしまふかもしれません。国民がどう判断するかということも僕らは見なければいけないですけれども、やっぱり国益というのは、何も日本の国益だけを向こうに押しつけるつもりは毛頭ありません。そうは言いながら、「譲ればいいのだ」、「仲よくしていれば外交がうまく」と言つ

ているのはおかしいと思っています。

○司会…ありがとうございます。まだまだ質疑は尽きないと思いますが、時間切れとなりましたので、大変名残惜しいのですけれども、今日はこの辺で閉じさせていただきます。

塾生の皆さん、ご起立お願いします。

○中川…今日のご感想なりご意見が引き続きあれば、メールでもファックスでも事務所の方に言っていただければありがたいと思います。

○司会…ありがとうございます。(拍手)